

[4] 串間市小体連（学校数10校 児童数 863人）

I 年間事業

期 日	事業名	主な内容	会 場
4月13日(木)	第1回理事会	前年度事業、会計報告・役員選出・事業計画・予算案の審議	金谷小学校
5月10日(水)	第1回南那珂地区小中学校教科等研究会		南郷ハートフルセンター
5月25日(木)	第2回理事会	研究推進・水泳記録会検討・新体力テスト・県小体連理事会等の報告	金谷小学校
6月27日(火)	第3回理事会	研究推進・水泳記録会検討	金谷小学校
7月25日(火)	第4回理事会	水泳記録会前日準備	福島小学校・市総合運動公園内プール
7月26日(水)	第38回串間市小学校水泳記録会		市総合運動公園内プール
8月21日(月)	第5回理事会	水泳記録会反省・研究推進・陸上教室検討	金谷小学校
9月15日(金)	第6回理事会	研究推進・陸上教室検討	金谷小学校
10月16日(月)	第7回理事会	陸上教室前日準備	福島小学校・市総合運動公園陸上競技場
10月20日(金)	第52回串間市小学校陸上教室		市総合運動公園内陸上競技場
11月24日(金)	第8回理事会	陸上教室反省・研究推進	金谷小学校
12月 4日(月)	第2回南那珂地区小中学校教科等研究会		吾田小学校
2月 2日(金)	第9回理事会	事業反省・研究のまとめ	金谷小学校
2月14日(水)	第3回南那珂地区小中学校教科等研究会		南郷ハートフルセンター

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

(1) 大会名 第38回 串間小学校水泳記録会

(2) 実施日 平成29年7月26日(水)

(3) 会 場 串間市総合運動公園内プール

(4) 出場者 串間市内各小学校5、6年生代表児童

(5) 実施種目

○ 自由形25m、50m(5、6年別)

○ 平泳ぎ25m、50m(5、6年別)

※ただし、50m平泳ぎのみ5・6年混合で競技する。(男女は別)

○ 100mリレー男子、同女子

(6) 競技方法

○ タイムレースとし、出場は、100mリレーを除き、1人2種目とする。

○ 競技は、原則として学年別、男女別とする。

○ その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

(7) 日程 開会式 8:40 競技開始 9:00

競技終了 11:15 閉会式 11:20

(8) 表彰

○ 上位6名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。

(9) 反省

- ・前日準備では、小体連理事以外の先生方にも協力をいただき助かった。ただ、テントや長机等の運搬に時間がかかるため、運搬用のトラックが2台あるとよい。
- ・水泳大会への出場選手数が増えてきていることもあり、30分程度終了時刻が遅くなったため、次年度からは終了時刻の変更が必要である。
- ・スターターピストルの火薬が湿ったためか不発があったので、出発合図の係に補助をつけるなどの対策が必要である。
- ・今年度は救護テントに寒冷紗を張り、日差しを防ぐことができよかった。選手が絆創膏を着けてプールに入水することについては、今後検討したい。
- ・昨年度に引き続き、目的達成にせまる素晴らしい大会であった。

2 陸上大会

- (1) 大会名 第52回 串間市小学校陸上教室
- (2) 実施日 平成29年10月20日(金)
- (3) 会場 串間市総合運動公園内陸上競技場
- (4) 出場者 串間市内各小学校6年生児童 ※小規模校は5年生も参加(172名)
- (5) 実施種目
 - トラック競技
 - ・100m ・800m(女子) ・1000m(男子) ・50mハードル ・400mリレー
 - フィールド競技
 - ・走り高跳び ・走り幅跳び ・ソフトボール投げ
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする
 - 出場は、100mとリレーを除き、1人2種目とする。100mは全員参加とする。フィールド競技は、1人1種目のみ参加できる。
 - 競技は、原則として学年別、男女別とする。
 - その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程

開会式	9:00	競技開始	10:00
競技終了	14:35	閉会式	14:45
- (8) 表彰
 - 上位6名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。
- (9) 反省
 - ・今年度は荒天により延期日での実施となった。延期日ということで、予定していた役員数が確保できず、一人一人への仕事の負担が大きくなった。
 - ・競技中も天候が心配されたため、簡易テントを準備しておくなどの対策をとった。
 - ・市陸上競技場の写真判定機の故障により、ストップウォッチでのタイム測定を行うこととなり、競技時間の遅延が心配されたが予定時刻通りに運営ができてよかった。
 - ・これまで同様に陸上協会の協力をいただき、すばらしい大会を行うことが出来た。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動にすすんで関わる児童の育成
～基礎的運動能力や主運動につながる力の向上を通して～

2 主題設定の理由

現行の体育科学習指導要領は、「それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。」ことを重視して改訂された。近年、メディアの急速な発達によって子どもの外遊びの機会は激減してきている。平成28年度体力テストの本県児童のアンケート結果を見ても「運動やスポーツをどのくらいしていますか。(体育の授業を除く)」に対する回答は、A判定の児童は『1週間に3日以上運動する』が50%以上であるのに対し、D・E判定の児童は30%以下である。さらに、「外遊びをどのくらいしていますか。」については、『月に1～3日』または『しない』と答えた児童の割合は総合評価Aより総合評価D・Eの方が高く、学年が上がるにつれて増加している。運動にすすんで関わることは、豊かな人間関係を育むとともに、健康的な生活を送る上でとても重要なことである。そのため、「運動は楽しい。」「運動ができるように

なった。」という経験を味わわせることができる体育の指導は、運動にすすんで関わる児童を育成する上で大変重要な役割を担っていると考える。

しかし、運動にすすんで関わろうとはいっても、運動ができる基礎的な体力が備わっていなければ楽しめる運動も楽しむことができないものである。これが体力の二極化を生む要因ではないかと考える。

串間市小体連では、まず本市の子ども達の運動への関わり方について協議をした。すると、やはり運動が得意な児童は体育科の授業を楽しみ、外遊びにも意欲的であるのに対し、苦手な児童は体育科の授業や外遊びには消極的な傾向にあるという意見が挙がった。

そこで、体育科の授業や日常生活において、児童の基礎的運動能力の向上を促す工夫や手立てについて考えていくこととした。（ここでいう基礎的運動能力とは、筋力や柔軟性、敏捷性といった体力テストで評価される体力の要素と捉えている。）これらの取組によって、児童の基礎的運動能力の向上がなされ、児童が運動の楽しさやできる喜びを味わうことにもつながり、運動にすすんで関わろうとするのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動にすすんで関わりたくなるような基礎的運動能力を高める指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

体育科授業において、単元の主運動（今年度は器械・器具を使っての運動遊び及び器械運動）につながるトレーニングを短時間で継続的に行うとともに、日常生活においては、基礎的運動能力の向上につながるような運動遊びを「かんたん」「たのしく」「効果あり」の視点で精選し、広めることで、運動ができる喜びを味わうようになり、運動にすすんで関わるようになるであろう。

5 研究計画

研究年度	29年度（土台をかためる）本年度	30年度（実践、啓発、まとめる）
研究内容	(1) 実態についての協議 (2) 主運動につながるトレーニング例の配付 (3) 運動遊び集の作成	(1) 準備運動10、環境づくり集の実践・啓発 (2) 研究のまとめ

6 研究の実際

(1) 主運動につながるトレーニング例の配付

具体的な取組についての協議の中で「サーキットトレーニングはいろいろあるのだが時間を費やす。」「体育科学習の主運動につながるものを行いたい。」という意見が挙がった。そこで、継続的に行え、かつ一単位時間の主運動の時間が窮屈にならないような短いトレーニングを提案すれば、他の職員も確実に実践することができると考えた。

その1つが資料1に示すように、今年度各校で進めていく「準備運動10」の掲示である。今年度は、器械運動につながるトレーニングを配付し、各校の体育館に掲示することで授業の導入段階で活用できるようにした。



【資料1 準備運動10】



【資料2 準備運動10の様子】

(2) 体力向上の運動遊び集の作成、配付

児童の基礎的運動能力は体育科の授業の時間だけでは向上させることは難しい。何気ない日常の遊びの中でも自然と体力を向上させていくものでもある。

そこで、体力テストの8種目に求められる体力の要素ごとに、それに応じた運動遊びを考えることにした。また、運動遊びを「かんたん」「たのしく」「効果あり」の視点をもとに精選し、広めることで、「やってみたい」という気持ちを引き起こすことができるのではないかと考えた。

以下に示すのは体力テストの8種目に応じてまとめた運動遊びの例である。なお、本県で課題のある握力とソフトボール投げについては、それぞれ2つの運動遊びを考えた。

1 名前	棒上り	2 高まる体力	筋力 腹筋 瞬発力
3 場所	運動場(上り棒)	4 所要時間	5秒~
5 やり方と場のづくり方			
場のづくり方			
上り棒にビニールテープ等でいくつか印を付ける。もしくは、色分けをする。			
やり方			
スタートの合図で上り棒を上り始める。			
決められた時間内(例えば5秒)でどこまで上れるのか計測する。			
実態に応じて、時間を調節する。			
※ あえて、時間をかけて(例えば30秒)上らせることで握力を鍛えられる。			
楽しいポイント			
上り棒に付けた印を点数化して友だちと競ったり、自己の記録を超えたりすることで、意欲を高めることができる。			



【資料3 体力向上の運動遊びの抜粋】

【小体連理事による運動遊び集作成のための話し合い】

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「準備運動10」を掲示するとともに、各校職員にそのよさを伝えることで、体育科の授業で活用され始めてきた。
- 「かんたん」「たのしく」「効果あり」の視点を定め、それに沿って運動遊びを考え、協議することで「運動遊び集」を作ることができた。

(2) 課題

- 「準備運動10」については、器械運動以外でも水泳や陸上競技などについても考え、活用しやすいような形にすることが必要である。
- 各校の職員の理解度によって、実践のばらつきがみられるため、来年度は「準備運動10」や「運動遊び集」のよさを職員研修会などで広めていきたい。

IV まとめ

串間市は複式学級を有する学校や少人数学級など、学校ごとの実態の違いがあり、体育科の指導だけでなく、水泳記録会、陸上教室などの事業運営や研究を進める上で課題が多い。しかし、小体連理事を中心に協力、分担しながら事業を運営し、研究を進めることができた。

今年度、事業部や研究部で出された反省を生かしつつ、次年度もねらいに迫れるように取り組んでいきたい。